

【担当教員名】 遠藤 和男 各学科助手	対象学年	2	対象学科	理学・作業・言語
	開講時期	前期	必修・選択	必修
	単位数	2	時間数	30

<概要> 保健・医療分野において用いられている独特の用語や定義を理解し、卒業研究や卒後現場でも応用できる統計学の方法を学習する。医療の現場でも重視されている、EBM(Evidence-based Medicine)の基礎についての修得を目指す。

<一般目標：GIO>

証拠に基づいた医療であるEBM(Evidence-based Medicine)を用いたチーム医療に参加するために、保健・医療分野で用いられる統計学的手法を理解し、正しい方法を適用できる。

<行動目標：SBO>

1. 証拠に基づいた医療であるEBMの重要性を説明できる。
2. 疫学研究で用いられる指標を列挙できる。
3. コンピュータ学習(CAD)に積極的に参加する。
4. 正しい統計学的な検定方法を選択できる
5. 適用した検定結果について正しく判断できる。
6. 常に証拠に基づいて議論する習慣を身につける。

回数	授業計画又は学習の主題	SBO	
		番号 学習方法・学習課題	
1	保健統計の指標	有病率、罹患率などの指標について学ぶ。	1,2 講義
2	平均値と標準偏差	代表地としての平均値、散布度としての標準偏差について学ぶ。	1,2 講義
3	平均値の比較	卒業研究時に最も多用される2群の平均値の差の比較について演習。	2-6 演習(助手が応援)
4	保健衛生の指標	人口動態統計その他の指標と率の標準化について学ぶ。	2 講義
5	粗率と訂正率	率の調整方法を応用し、SMRを計算する。	2-6 演習(助手が応援)
6	疫学研究の型と指標	疫学研究の方法論と実際の調査で用いる各種統計指標について学ぶ。	2 講義
7	食中毒の原因究明	後ろ向き研究としてオッズ比の計算方法を演習する。	2-6 演習(助手が応援)
8	記述疫学とアンケート	記述疫学の方法やアンケート調査の実際について学ぶ。	2 講義
9	アンケート調査	アンケート調査の集計結果について傾向性の検定などを適用する。	2-6 演習(助手が応援)
10	敏感度と特異度	臨床検査学で応用されているスクリーニングの概念を学ぶ。	2 講義
11	スクリーニング	レベルを動かした時の敏感度、特異度の変化、PVPについて演習。	2-6 演習(助手が応援)
12	地域相関研究	地域相関研究の考え方や生態学的偽相関について学ぶ。	2 講義
13	検量線と地域相関	検量線を描くとともに、地域相関研究の例について演習する。	2-6 演習(助手が応援)
14	まとめと試験演習	これまでのまとめと国家試験問題を演習する。	1-6 講義と演習

【使用図書】	<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格・その他>
教科書	医統計テキスト	遠藤和男、山本正治	西村書店	1997第3刷、¥2500+税
参考書				
その他の資料	第1回及び偶数回はレジュメを配布する予定である。専門用語を穴埋めしていくとサブ・ノートが完成する。それを奇数回目のサブ・テキストとして使用する。もちろん奇数回目の演習用のプリントは別途配布する。			

【評価方法】	【履修上の留意点】
<ol style="list-style-type: none"> 1. 演習終了時に小レポートを提出してもらう。 2. 講義の最後に小テストを実施する。 3. 筆記試験結果に1、2の出席を考慮する。 	※なお、健康栄養学科及び看護学科のシラバスは別途作成したので注意されたい。